

## 審査の結果の要旨

氏名 アウル ナンディニ

論文題目 Identifying spatio-cultural settings in a self-organized living environment of slum in Bangladesh  
(バングラデシュのスラムにおける自己組織化した生活環境での空間文化的セッティングの識別)

本論文は、バングラデシュにおける現存のスラム居住者の居住実態の把握と居住環境の評価から文化的要因を見出し、スラム居住者のための可能な居住計画を試みるものである。

世界的な人口増加と都市への集中、貧困と限られた資源からスラムが作られ、スラム居住者にとって人間の基本的な文化的生活のための要求である居住環境の整備は問題となっている。バングラデシュも人口は急速に増加し、特に首都ダッカでは農村部から流入する人口は莫大であり、スラム居住者は貧しい状況の下で生活している。近年いくつかのNGOは重要なインフラ、教育、保健施設を提供し、政府はいくつかの住宅供給計画を始めたが、最も貧しく脆弱な人々はこのような市場ベースの住宅では購入できず、このような住宅計画は人々の生活スタイルに合っていない。多くの国際的に行われているスラム改善プロジェクトは技術と建設に集中し、スラム居住者のライフスタイル、購入可能性、生活環境の空間文化的セッティングや他のニーズに適合させることに失敗している。

ここでは、スラムは必ずしも否定的ではなく、より良い生活環境のために適用できる意味深い要素があり、小さな変化だけが求められるという考えに立ち、スラム居住者にとってインフラの整った高層住宅だけがより良い居住環境ではないということを明らかにする。これらの人々は機能的、文化的、経済的に応えることができる環境を求めている。

そのため、実存するスラム地区から重要な空間・文化的セッティングを識別し、これらの基本的要因を促進・維持し、統合されたアプローチにより購入可能な住宅供給の解決策の改善を試みる。

調査地は、バングラデシュ・ダッカ市の Karail スラム、Bhashantek スラム、Bhashantek 改善プロジェクトを対象とする。

方法は、インタビュー、詳細な観察、筆記による観察記録、写真撮影、スケッチ描画によるフィールド調査である。

質問紙では、居住者に彼らの居住環境、空間の機能と生活の文化に関していくつかの重要な点を尋ねた。また、住戸内・外の空間的配備についての居住者自身の考えを探った。

調査から、スラム居住者は、屋外の中庭の多目的な利用、アクセスしやすい職場、空間が狭くても収納の場所を工夫する典型的なスタイルを持つなど、空間を利用し、生活は強い文化的、環境的、行動的、空間的、経済的影響を持っていることを明らかにした。そしてスラム地域が発展した過程はある連鎖、空間のゾーニングがあり、購入可能で持続可能な住宅供給の解決策へ適用可能性を持っていることを明らかにした。

スラムは通常、貧しい居住者の住む混沌としたカオスと見られるが、小さな近隣に集まる住居と共同の空間に開く、目に見えない秩序と目に見えるパターンがあることが見出された。最も貧しい集落でも、プライベートゾーン、セミパブリックゾーン、そしてしばしばパブリックゾーンに緑と水面があり、小さな店がある。道は歩行者や車の交通だけでなく、社会的、経済的、家庭的な活動にも好まれ使われる空間である。

最後に、調査から得られた実用的な発見に基づいた提案とアイデアを示した。スラム居住者が購入可能な住宅供給を達成するために、社会・文化的に受け入れられ経済的に購入可能な集落の明示、後から増築できるタイプやスケルトン供給タイプの住宅、農業や提案された土地利用などとの土地の共同など、統合された、ホリスティックなアプローチが提案される。

多くのローコスト住宅の試みは、与えられた敷地にできるだけたくさんの箱を積み上げることを試みた単純な解が多いが、もし我々が環境、文化、気候を考慮すれば、住宅供給はより購入可能で志を持つ人々が参加し、スラムは都市の中で不可欠で創造的で生産的な地域となりうるとした。

以上のように本論文は、バングラデシュにおける居住者の居住実態の把握と居住環境の評価により、スラム居住者のための可能な居住計画へのホリスティックなアプローチへの道筋を示した。

今後の住空間・住宅地の計画に重要な知見を与えるもので、建築計画学の発展に大いなる寄与となりうるものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。